

# 5年 総合単元的な道徳学習 いのち☆きらり☆プロジェクト～自分をいきいきさせよう～

窪田 絵美

## 1 夢や希望をもち、よりよい自分を目指す子供を育てたい！

### (1) 児童の実態と目指す姿

☆自分のいいところを知りたいな。  
★すぐにあきらめてしまうな。  
★特に、夢や目標なんてないよ。  
★自分が好きじゃない。自信もないし…。

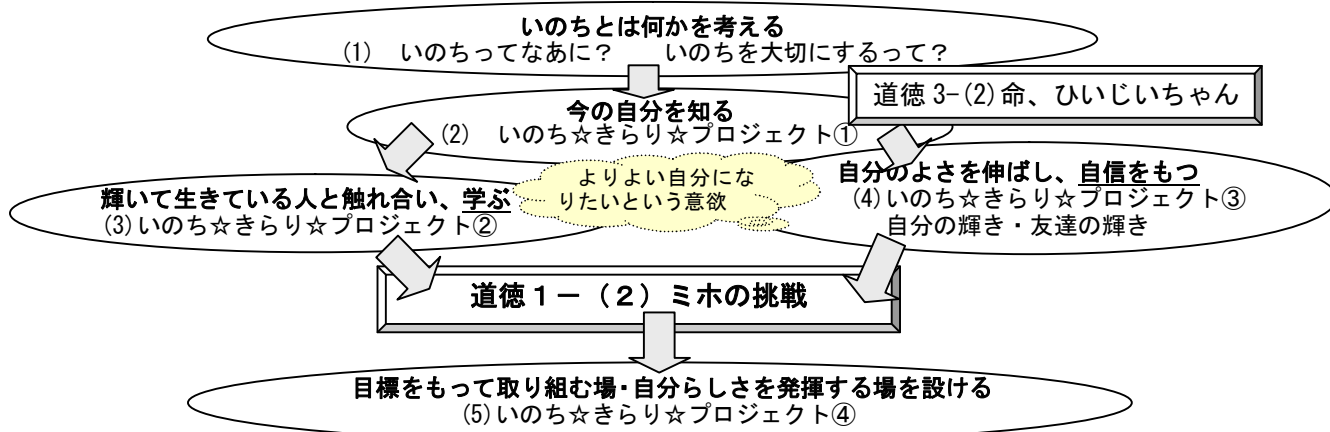


☆夢にむかってがんばりたい！  
☆輝いて生きたい！  
☆自分らしさをもっと生かしたい！  
☆自分に自信がもてたよ！



明るく、素直ではあるものの、自分に自信がもてない子供たち。困難なことには立ち向かおうとせず、新しいことへの挑戦にも消極的な子供たち。粘り強く一つのことをやり遂げようと努力することができない子供も多い。このような子供たちに目標に向かってがんばることの大切さや簡単にあきらめない心情、そして、希望をもち、よりよい自分に向かって前進していこうとする強い意志と実行力を育てたいと感じた。一人一人が自分に自信をもち、様々なことに前向きに取り組もうとする「いきいき」と輝いた姿を見たいと願い本単元を始めた。

## 2 2つの柱から進めた「いのち☆きらり☆プロジェクト」(主な単元構想)



## 3 「いのち☆きらり☆プロジェクト」の流れと子どもの反応

### (1) いのちとは何かを考える

これまで子供たちは「いのち」について深く考えたことがなかったので、まずは、「いのちイメージマップ」を書き、一人一人の考えを出し合った。その後、命を大切にするとはどういうことかを話し合った。

いのちってなあに？

いのちを大切にすると？

勉強しているのも運動しているのも全部「いのち」に関係あるんだ。「いのち」って不思議なものなんだね。

いのちを大切にするととは・・・

交通事故にあわないこと。風邪をひかないこと  
好き嫌いをしないこと……など

道徳 3-(2)

①かけがえのない命「命」②受け継がれる命「ひいじいちゃん」

ぼくはいのちを大切にしていると思ってきたけど、本当に大切にしているのかな。与えられたいのちをせいっぱい生きることが本当に大切にするとってことなのかな…。

イメージマップを作成したことにより、これまで考えていた命以外にも意味がありそうだと気づき、もっと命について考えてみたいという意欲が高まった。また、「命を大切にするとは」の話し合いでは、生命保持的な考えをする子供が多かった。しかし、その後、道徳で生命尊重の資料を重点的に扱ったことにより、子供たちは命を大切にすることの意味を考え直し、生き方にも目を向けるようになった。さらに、自分も精一杯生きたいという思いをもった。

## (2) 今の自分を知る

精一杯生きたいと考えるようになった子供たちに、「今の自分はどんな自分なんだろう」と投げかけ、まずは、自分を見つめる活動を行った。

### いのち☆きらり☆プロジェクト①

☆一度がんばったらあきらめない。(特にバドミントン)  
☆仲良しの友達とはたくさん話せる。



- ★言われたことをすぐ忘れる。
- ★友達と遊んでいたら、他の友達のことについて気づいてあげられない。
- ★人見知りしてしまう。
- ★すぐあきらめてしまう。
- ★人への態度が悪い。(悪口)

< I児の自分振り返りシート >

ほとんどの子供が長所よりも短所を多く挙げた。短所よりも長所を多く書いた子供は、わずか2名しかおらず、子供たちが自分のよさを実感できていないことを感じた。そこで、子供たちの自己肯定感が少しでも高まるように、「輝いて生きている人と触れ合う(学ぶ)」「自分のよさを見つけ、伸ばす(実践する)」の2つの柱から「いのち☆きらり☆プロジェクト」を進めることにした。

## (3) 輝いて生きている人と触れ合うことにより、よりよい生き方を学ぶ

多様な生き方に子供たちが会うことにより、子供たちはよりよい生き方について考え、夢や希望をもつことにもつながると考え、調べ学習やゲストティーチャーとの触れ合い活動を行うことにした。そして、「精一杯生きている人」を「いのちきらりさん」と名付けた。

### いのち☆きらり☆プロジェクト②

#### ・いのちきらりさんってどんな人？

きらりさんの真似できる人もきらりさんだと思うよ。だからきらりさんから学びたい！きらりさんについて調べてみたい！

<話し合っただけのいのちきらりさんの定義>

- ・一生懸命やっている人
- ・あきらめない人
- ・目標や夢に向かってがんばっている人
- ・決めたことをやりきる人
- ・何にでも挑戦する人
- ・自分のよさや力を生かしている人

#### ・いのちきらりさんについて調べよう！

子供たちの調べたいいのちきらりさん(有名)  
イチロー、松坂大輔、福原愛、ヘレンケラー、マザーテレサ など・・・

みんなきらりさんだね。ぼくたちの近くにもきらりさんみたいな人いそうだよ。

#### ・朝日丘のいのちきらりさんを探そう！

- ・「毎朝校門であいさつをする」と自分で決めたことを毎日続けている校長先生。
- ・何十年間も毎日休まずに、火の用心を呼びかけ続けている間島さん。
- ・歩けるようになるという目標を立てて、リハビリをがんばっているおばあちゃん。 など・・・

#### ・きらりさんの話を聞こう

##### 【消防士さん】



・私は、授業でもバドミントンでも失敗したら恥ずかしくてもうやめたくなるけれど、消防士さんみたいに失敗しても乗り越えられるようになりたい。(M児)

##### 【太田 友恵さん】



・「時間は宝物。その大切な時間で自分を成長させよう」という言葉を聞いて、ぼくの時間が無駄にならないよう毎日を一生懸命生きたいと感じた。(O児)

##### 【円山 真一さん】



・いやだなと思うことでもまずは続けてみたいと思った。そしたら自分に自信がもてるかもしれない。(I児)

本やインターネットで調べる活動、身近な人にインタビューをする活動、ゲストティーチャーの話を聞く活動を通して、「目標をもって生きることの大切さ」「日々努力することの大切さ」「命を輝かせていきいきと生きるとはどういうことか」など多くのことを学ぶことができた。また、輝いているきらりさんの生き方と比べて、自分はどうかと自分を見つめ直すこともできた。

#### (4) 自分のよさを伸ばし、自分に自信をもつ

子供たちが自分のよさを伸ばしていけるよう、自分がステップアップした姿を思い描きながら、日々目標を立てて生活することにした。

#### いのち☆きらり☆プロジェクト③

##### ・ステップアップするために目標を立てて生活しよう

- |                    |   |                |
|--------------------|---|----------------|
| 「今の自分」             | ⇒ | そのために（目標）      |
| ・人が困っていても助けてあげない。  |   | ・友達に声をかける。     |
| ・「ステップアップした自分」     |   | ・机がガタガタだったら直す。 |
| ・進んで人のことを助けてあげられる。 |   |                |



自分のよさを伸ばしたり短所を改善したりするために、自分がステップアップできるような目標を立てて生活することにした。小さな目標を一つずつ達成していくことにより、子供たちは、達成感や満足感を味わったり自分への自信を深めたりすることができた。

#### 自分の輝き・友達の輝き

子供たちが、自分のよさに気づき、自信を高めていくことができるよう、周囲の人から認めてもらう経験として「それがあなたのいいところ」「いのちきらりさん見つけた」「保護者からの手紙」「先生からのカード」を行った。また、自分で自分のよさやがんばりに気づくことができるよう、以下のような日記を書いた。

##### ・一日を振り返ろう「いのち☆きらり☆日記」

いきいき・ほかほか・きらきらのうち自分はどの点できらりと輝いていたのかを詳しく書く。  
例：学習発表会のなわとびの練習で、ダブルタッチが昨日は3回しかできなかったのが今日は10回できるようになりました。（いきいき）



先生からのコメント

周囲の人から認められる体験を多くすることや自分のがんばりを実感することにより、子供たちは自分への自信を高めることができた。また、自信をもつことにより、もっと輝く自分を目指してがんばろうという意欲につながることもできた。

#### (5) 目標をもって取り組む場、自分らしさを発揮する場を設ける

子供たちは、目標をもって取り組むことの大切さに気づき、自分のよさをさらに伸ばそうと考えるようになった。そこで、子供たちが自分らしさを発揮する場として「保育園児との交流会」を設けた。

#### いのち☆きらり☆プロジェクト④

##### ・交流会に向けて目標を立てよう（演技・係）



学習発表会の時はできなかったから「縦の閉脚跳び」ができるようになりたい！（演技）



「手先が器用」というよさを生かして保育園さんに手作りのマスコットを作ってあげたい。だからプレゼント係になろう。（係）

##### ・交流会を成功させよう

私は、ついつい友達の良いところを考えると嫌な言い方をしてしまう。誰にでも優しくできる人になりたくて「案内係」になりました。自分が担当した保育園の子供たちに優しく声をかけることができました。優しい自分に近づけたように思います。（I児）



学習発表会の時にはできなかった「倒立ブリッジ」ができるようになると目標を立てて練習しました。できることには挑戦するけれどもできないことから逃げた自分を変えたい気がしました。これからも自分をステップアップさせたいです。（T児）



保育園児に演技を見せるという明確な目的があったため、一人一人自分の立てた目標に向かって努力を続けることができた。また、この活動により、子供たちは達成感や充実感を感じ、「今度は〇〇をしてみたい。」と もっといろいろなことにも挑戦したいという気持ちにもつながった。

#### 4 道徳「夢や希望をもち続けよう1ー(2)『ミホの挑戦』」の実践

##### (1) 教師の願い

「ミホの挑戦」は、シドニーパラリンピックのセーリングに挑戦したり、トライアスロンに挑戦したりしている濱田ミホさんの実話をもとにした話である。交通事故による入院中、つらい闘病生活と片足の切断という事実挫折しそうになりながらも、立ち直り、少しずつ新しい挑戦を始めていく。歩けるようになってからも、さらに自分の幅を広げるために新たな目標をもち、困難を乗り越えていくという展開になっている。

総合の学習を通して、目標をもつことの大切さや自分のよさを発揮してよりよく生きたいという思いを高めつつある子供たちが、ミホさんの輝く生き方を通して、目標や希望をもって粘り強く努力を続けることの尊さや、挑戦し続けることのすばらしさをさらに感じ取れるようにしたいと思い本資料を選んだ。また、本実践を通して、子供たちに自分もミホさんと同じようにがんばっていることがあると気づかせることにより、自分の命の輝きを感じ、自信をもち、さらに、命を輝かせて生きていきたいという思いを高めていくことを期待した。

##### (2) ねらい

より高い目標を立て、困難や失敗にくじけずにがんばり続けようとする心情を育てる。

##### (3) 発問と子どもの考え

###### ① ミホの気持ちを考える

- ・ 足を切り落とすことに決めたとき
- ・ 何度やっても走れないとき

☆ 何千回も何万回練習を続けているとき (中心発問)



- ・ 家族に心配をかけたくない。
- ・ みんなと一緒に走りたい。
- ・ ここであきらめて後悔したくない。
- ・ チャレンジしたい。
- ・ 努力したら輝ける。
- ・ 自分が気持ちよくなりたい。



- ・ トライアスロンのゴールを目の前にしているとき

###### ② 自分もミホさんのようにがんばったことはないか振り返る

- ・ 運動会の鼓笛隊の練習のとき、太鼓がなかなかできなかったけれど、運動会で成功させたいと思ってがんばった。本番ではうまくできた。途中でやめなくてよかったと思った。
- ・ 保育園との交流会で、ずっとできなかった補助倒立ができるようになった。練習を続けてよかったと思った。

##### (4) 授業後の感想より

ミホさんは、走れるようになるという目標をゴールしても、そこで止まらずに、いつも「もっと上を。もっと上を。」と目標を立てて一生けん命がんばったりしていた。命がよく働いていきいきした人だと思った。ぼくはうまくいったらそこで終わっていたけれど、もっと上を目指して自分をステップアップさせていきたいと思った。(O児)

あきらめずにがんばれば、何でもできるからチャレンジをたくさんして、練習もして、自分の命を輝かせたいと思いました。「できるかも！」と思うことよりも「ちょっと難しいかな？」ということの方が、わたしのステップアップになっている気がしました。どんなに辛いことがあっても、「あきらめない」「一生けん命」にすることが大切なんだと思いました。(Y児)

一つのことを成し遂げることに満足せず、さらにトライアスロンに挑戦しようとしたミホさんの姿から、子供たちは「あきらめない」「努力を続ける」ことだけでなく、「より高い目標を立てる」ことの大切さも感じる事ができた。また、終末の振り返りの時間をたっぷり設けたことにより、自分のこれまでのがんばりや成長を再認識することもできた。

#### 5 より高い目標をもち、輝き続ける子どもを目指して (○：成果 ●：課題)

- 生き方のモデルとなるような輝いて生きている人にたくさん出会ったことにより、子供たちの「自分もよくなりたい。あんな風に輝きたい」という意欲を高める事ができた。
- 一つ一つ自分の立てた目標をクリアしていく成功体験を重ねたり、他から認められる経験を多く積んだことにより、子供たちは自信を高め、自己を肯定的に捉えられるようになった。(短所よりも長所を多く考えられる子どもが増えた) また、そのことにより、さらに高い目標にもチャレンジしようという気持ちを持ち続ける事ができた。
- 道徳の時間との関連を図り、自分の生活や自分自身を見直す機会を設けたことにより、命を自らの課題として捉え、追究する事ができた。
- 子供たちの追究意欲を継続させたり、活動をさらに発展させたりしていくための単元構想の工夫が必要である。